

目 次

はじめに

第 I 部：理 論 編

第 1 章 グローバル協力論とは何か？ ————— 2

- 1 グローバル協力論とは何か？ (2)
- 2 国際関係論から国際開発論、そして NGO・ネットワーク研究へ (4)
- 3 グローバル政治経済論からグローバル・ガバナンス論、そしてグローバル公共政策論へ (9)
- 4 グローバル協力論の特徴、ならびに今後の課題と展望 (12)

第 2 章 国際社会はいかに形成されてきたのか？ ————— 14

——大航海時代から現代までの国際秩序の系譜

- 1 国際政治は自然状態か (14)
- 2 アナーキカル・ソサイエティとしての国際秩序 (15)
- 3 分割される世界 (18)
- 4 戦争が管理される空間とラインの彼方 (21)
- 5 国際社会の拡大——現代の国際秩序へ (24)

第 3 章 地球社会はいかに統治されているのか？ ————— 27

——グローバル・ガバナンスを理解する

- 1 グローバル・ガバナンスの重要性と分析手法 (27)
- 2 政府、市場、市民社会、ガバナンス (27)
- 3 グローバル三項モデルの提示 (30)
- 4 グローバル・ガバナンスの内実を探る (34)

第Ⅱ部：テーマ編

第4章 国際平和とは何か？ _____ 40

——国際平和と人間の安全保障の狭間で

- 1 平和と友好の虚と実 (40)
- 2 主権平等と国際平和 (41)
- 3 国際平和の背後で (44)
- 4 なぜ人道的危機が見過されたのか (47)

第5章 地球環境問題は解決できるか？ _____ 52

——地球温暖化交渉を中心に

- 1 地球環境問題とは何か (52)
- 2 地球温暖化の科学 (53)
- 3 地球温暖化の政治 (55)
- 4 地球温暖化の経済——環境保護を経済の仕組みに組み込んだ温暖化の国際条約 (59)
- 5 地球温暖化問題の解決に向けて (60)
- 6 温暖化問題の解決には人類の知恵を絞って全員参加が求められる (62)

第6章 世界の貧困問題をいかに解決できるのか？ _____ 64

——国際協力の限界、できること

- 1 貧困削減に向けた国際協力——課題対応の不十分さ (64)
- 2 資本主義もたらす社会矛盾——「分裂した共同体」の広まり (68)
- 3 「分裂なき共同体」再生の国際協力——「脱成長」論のできること (71)
- 4 今後の展望——「脱成長」論の限界、国際協力のできること (73)

第Ⅲ部：地域研究編

第7章 アジアの経済は「発展」しているのか？ _____ 78

——地理学・地域研究からのアプローチ

- 1 アジアの経済成長 (78)
- 2 垂直的な国際分業 (79)
- 3 水平的な国際分業 (82)
- 4 香港の経済発展 (84)
- 5 珠江デルタ地域

の経済発展 (86) 6 グローバル化とアジアの地域性 (88)

第8章 アフリカ人の「選択の自由」を尊重する援助とは? — 89

——元子ども兵の社会復帰支援から潜在能力アプローチの可能性を探る

1 アフリカの人々の主体的な意思決定をどこまで尊重できるのか? (89) 2 ウガンダ北部の元子ども兵の抱える課題 (90) 3 潜在能力アプローチの有用性 (91) 4 元子ども兵は「自律した主体」といえるのか? (93) 5 自己決定に基づく潜在能力アプローチのジレンマ (94) 6 潜在能力アプローチの適用可能性を高めるための視点 (96)

第9章 なぜ軍隊なしに平和が維持できるのか? ——— 102

——積極的非武装中立平和外交を進めるコスタリカの挑戦

1 「軍隊をすてた国」(102) 2 米国さえも利用するしたたかな非武装外交 (104) 3 米国との利害対立と女性を中心とした積極的非武装中立外交 (107) 4 非武装を中心とした攻められない国づくり (110)

第IV部：公共政策編

第10章 フェアトレードで世界は変えられるか? ——— 116

——フェアトレードタウン運動への展開

1 フェアトレードのインパクト——“私”の生き方と“私たち”の生き方 (116) 2 フェアトレードの仕組みとは? (118) 3 途上国の生産者への効果・インパクト (120) 4 世界に広がるフェアトレードタウン (122) 5 むすびにかえて——リローカリゼーション(地域回帰)の時代へ (127)

第11章 地球規模問題を一気に解決する処方箋?! ——— 129

——グローバル・タックスの可能性

1 地球規模課題の原因とグローバル公共政策の必要性 (129) 2 グローバル・タックスの可能性 (129) 3 先駆けとしての航空券連帯税と注目される金融取引税 (133) 4 リーディング・グループ総

第 V 部：アクター編

- 第 12 章 国際機関および大学は地球問題の解決のために何をしているのか？** _____ 142
——情報通信技術と社会開発の融合を事例として
- 1 国連ミレニアム開発目標と現状 (142) 2 ICT の発展における社会開発への貢献 (145) 3 教育開発と ICT (146) 4 社会開発における ICT の導入——世界遺産地域の持続的開発のための ICT の応用 (149) 5 情報通信技術を社会開発に活かすための留意点 (154)
- 第 13 章 地球環境ガバナンスにおける政府の役割はいかなるものか？** _____ 156
——気候変動問題の場合
- 1 地球環境問題の特徴 (156) 2 気候変動問題の挑戦 (156) 3 気候変動問題における主要なアクターと政府に期待される役割 (157) 4 政府の役割(1)——国際交渉 (158) 5 政府の役割(2)——国内における気候変動対策のための政策介入 (162) 6 政府の役割——今後の課題 (166)
- 第 14 章 企業を変える企業?! ——進化する CSR とその課題 ——** 169
- 1 社会変革ビジョンを柱にクリーン起業 (169) 2 環境・CSR レポート事業が本格的にスタート (170) 3 CSR コンサルティングへのステップ (171) 4 いま求められるライフスタイルの見直しと新発想のイノベーション (175) 5 CSR の生まれた背景とこれからの世界の潮流 (177) 6 クレアン企業理念とバックキャストリング (179)
- 第 15 章 NGO は世界を救えるか？** _____ 182
——国際保健 NGO の経験から
- 1 「ミレニアム開発目標」をめぐる市民キャンペーン (182) 2 なぜ保健の課題が「ミレニアム開発目標」の中で重要になったのか (185)

- 3 国際的なトレンドをいかに引き寄せるかが勝負を決める (189)
- 4 国づくりのための支援としての「ミレニアム開発目標」(190) 5
- 「ポスト MDGs」はどうなるのか (191) 6 人類にとって貴重な15年
間=MDGs (193)

第16章 共振する社会運動は、世界社会フォーラムに 何をもたらすのか? _____ 195

——オルタ・グローバリゼーション運動とアラブ民衆革命を中心に

- 1 共振する社会運動 (195) 2 オルタ・グローバリゼーション運
動としての WSF (196) 3 民衆による「怒りの連鎖」運動 (199)
- 4 2つの社会運動の交差と WSF への含意 (205)

あとがき